

令和6年度 (株)リクルート社員の方々による座談会

3月4日(火)、5日(水)、普通科2年生の「総合的な探究の時間」に、株式会社リクルートの社員の方々にお越しいただき、今後の進路を考える上でヒントとなるお話をしていただく座談会を開催しました。生徒たちはメモを取りながら熱心に耳を傾け、積極的に様々な質問をしていました。各生徒は4名のリクルートの方のお話を聞くことができ、今後の進路を考える上で貴重な機会となりました。



2年2組 塩崎 萌寧

本プログラムを通して、大学選びなど進路を決めるとき、自分が行きたいと思っている学校について、しっかり調べて知っておくことが大切だと分かりました。インターネットを使って調べたり、パンフレットを見たりするだけでは、その学校の“リアル”を知ることが難しいので、オープンキャンパスに行き、どんな人が通っているのか、どんな授業を受けるのか、学校の“リアル”な部分を知ることが大切だと思いました。また、学校選びの時だけでなく就職するときにも、「有名だから」「お金をたくさん稼げそうだから」などキラキラした感じだけで選ぶのではなく、学校選びと同じように、その仕事の“リアル”を知ることが大切だと分かりました。

2年3組 柏木 優剛

僕はこのプログラムを通して学んだことが4つあります。1つ目は、何でも挑戦してみるチャレンジ精神を持つことです。就活では、たくさんの企業にチャレンジしてみることが大事だと分かりました。2つ目は、事前に調べておくことの大切さです。大学に関することなどを前もって調べず、いざ入ってみると自分の思っていたものとは違い苦労してしまうことがあると知りました。3つ目は、いろんな経験しておくことです。いろんな経験しておくことで自分のやりたいことが定まってくると分かりました。4つ目は、あきらめないことです。講師の方は、とても長いマラソンを走りきったという話を聞いて、すごいなと思いました。僕は途中であきらめてしまうことが多いので、マラソンのように最後までやりきろうと思いました。

2年5組 楠山 結花

今日のリクルートの社員さんの話を聞いて、進路についてたくさんのことを知ることができたと思う。現時点で私が一番行きたいと思っている志望校はあるけれど、合格すること、入学することがゴールではなく、その大学でどんなことを学ぶのか、どんな先生がいるのかなど、大学の中身まで知っておくことが大切だと思った。実際に大学選びに失敗したと感じている人の話を聞いて、大学に入る前と後で大学に対してのギャップを大きくしてしまったり、後悔したりしないためにも、大学調べやオープンキャンパスなど積極的に行動することが大切だと分かった。

